

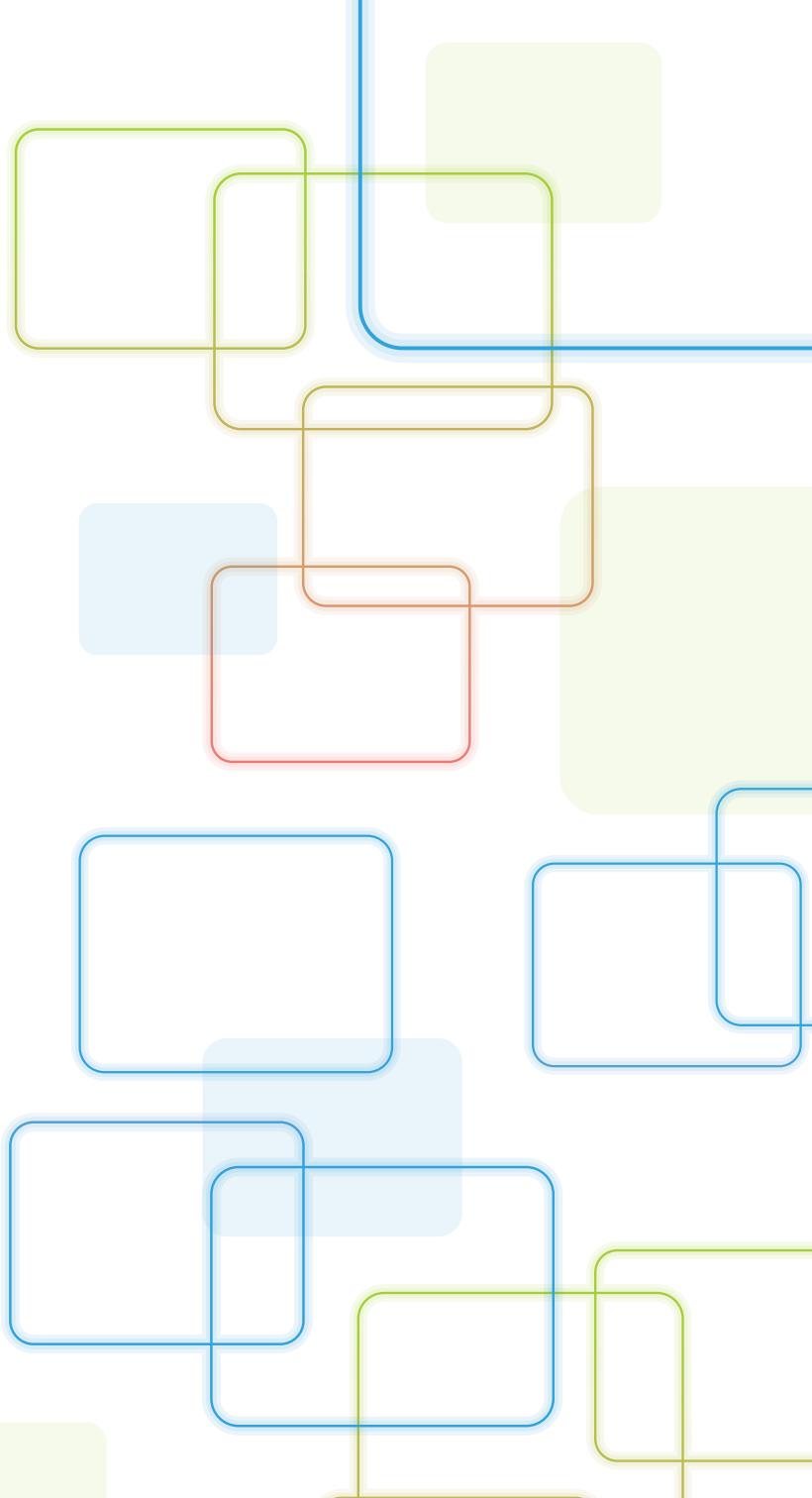
GEOMATEC
CREATE COATING SOLUTIONS

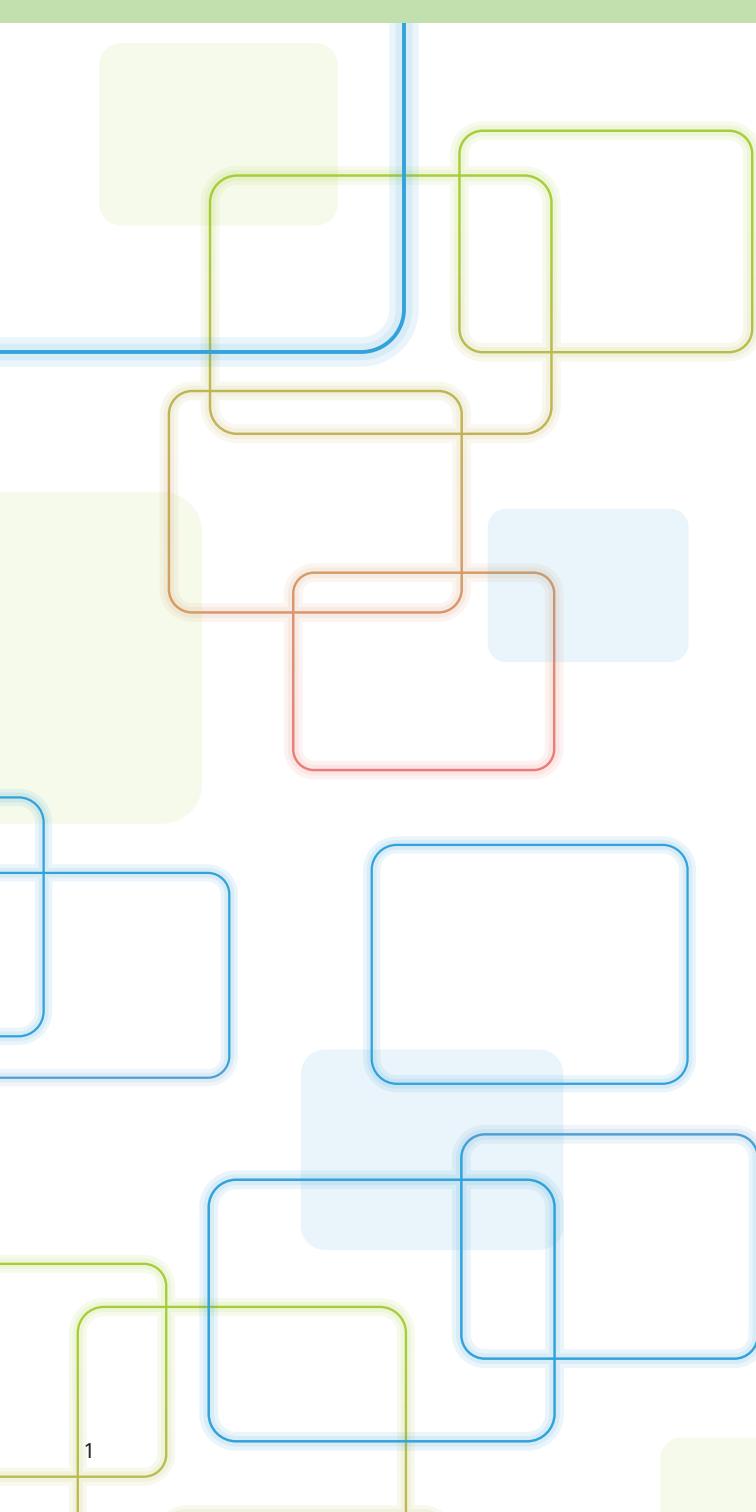
2020 BUSINESS REPORT
第**67**期 報 告 書

2019年4月1日 ▶ 2020年3月31日

ジオマテック株式会社

証券コード 6907





Contents 目次

株主の皆様へ	2
財務ハイライト	4
財務データ	5
財務指標	7
事業の経過及び成果	8
TOPICS	
展示会情報	9
GEOMATEC製品の歩み	11
株式の状況	13
会社概要	14

[株主の皆様へ]

株主の皆様におかれましては、日頃より格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

ここに当社グループの第67期株主通信をお届けするにあたりまして、一言ごあいさつ申し上げます。

当連結会計年度におけるわが国経済は、米中貿易摩擦の長期化や中国経済の減速等の影響に加え、新型コロナウイルスの感染拡大に伴う世界経済への不安が高まるなど、先行き不透明な状況で推移いたしました。

このような環境の中、当社グループを取り巻く事業環境は、当社の主力製品が関連する中小型フラットパネルディスプレイ市場において、車載向けは堅調に推移するものの、スマートフォン向け需要の低迷が続いていることから厳しい状況で推移いたしました。

この結果、売上高は54億49百万円(前期比13.3%減)となりました。損益につきましては、売上高が減少したことから営業損失は12億6百万円(前期は5億1百万円の営業損失)、経常損失は11億59百万円(前期は4億28百万円の経常損失)となりました。また、投資有価証券売却益として60百万円を特別利益に、事業環境の変化に伴う当社グループの収益性低下による固定資産の減損損失20億37百万円、収益構造の強化を図るために実施した転進支援制度による特別退職金2億68百万円などを特別損失に計上いたしました。これにより親会社株主に帰属する当期純損失は35億11百万円(前期は10億20百万円の親会社株主に帰属する当期純損失)となりました。



代表取締役社長兼CEO

松崎 建太郎

このような厳しい事業環境において、当社グループが認識している対処すべき課題及び対応策は次のとおりであります。

① 特定事業領域への過度な依存からの脱皮

当社グループの主力製品が関連する中小型フラットパネルディスプレイ市場において、事業の主軸でありましたスマートフォン市場における液晶パネル関連需要の減速と、有機ELパネルへの代替といった環境変化に対応するために、特定市場への依存偏重から脱皮し成長分野への事業領域拡張を加速してまいります。

- 対象事業領域をマクロトレンドから成長性が見込めるエレクトロニクス・モビリティ・インダストリーの3分野に拡張し、分野別対応策を段階的に実行することにより、事業及び商材ポートフォリオの転換を図っております。
- また、技術開発部門を再編強化することで、各事業領域での成長を支えるコア技術(g.moth®・薄膜センサー・超撥水/撥油/滑落膜など)の創出に注力すると同時に、製造技術も真空成膜をベースとしつつ応用や製法の多角化に取り組んでおります。

② 受託加工專業からの脱皮

対象市場でのサプライチェーン垂直統合や地理的再編、また競合環境の変化に対応するため、受託加工專業から脱皮し表面加工のソリューション業への業態変化を加速してまいります。

- これまでの、部分(成膜)工程受託で培った技術や製造ノウハウ、装置の調整やカスタム化、また工程や設備設計といった成膜「匠」のコンサルティングまでを事業商材と位置付け、アライアンスも積極的に活用することで新たなビジネスモデルの創出に取り組んでおります。
- マーケティング機能を強化することで、従来の指定受動型での価値提供販売モデルを、ニーズ発掘に基くシーズ開発からデジタルトランスフォーメーション(DX)活用の販促やオンライン販売といった能動提案型の価値共創販売モデルへと転換を進めております。

③ 経営体質の更なる強化

上述のような、事業領域の拡張やビジネスモデル転換といった対外的な対策と同時に、内部的な取り組みによる収益力強化も加速してまいります。

- 各商材カテゴリごとに細分化した限界利益率向上の取り組みに着手し、開製販横断的にPDCAを展開することで商材単位での収益力底上げを進めております。
- モノづくり戦略の抜本的な見直しとして、商材や製法に則した最適製造拠点での設備総合効率の改善、自動化及びIT化による成膜前後工程の作業効率改善、品質ロスコストの更なる低減によって、生産性の向上に取り組んでおります。
- 上記の取り組みと並行して、昨期末に実施いたしました転職支援制度等の構造改革により、経営体質の強化を図っております。

④ 継続企業の前提に関する重要事象等

当社グループは、2期連続で重要な営業損失、経常損失、親会社株主に帰属する当期純損失を計上していることから、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況が存在しております。

しかしながら、当連結会計年度末において、78億99百万円の現金及び現金同等物を有しており、当面の事業資金を確保していることから資金繰り上の懸念はありません。また、当社グループは、上記対応策を着実に実行していくことで、当該事象又は状況を解消できると考えております。

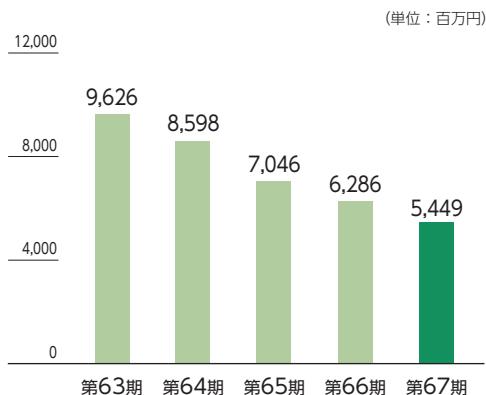
従いまして、当連結会計年度の末日現在において、継続企業の前提に関する重要な不確実性は認められないものと判断しております。

株主の皆様におかれましては、今後ともより一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

[財務ハイライト]

▶ 売上高

5,449百万円



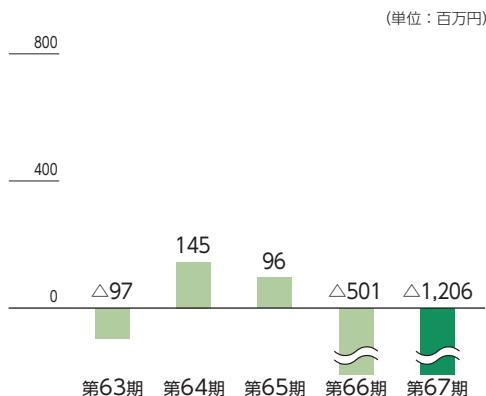
第66・67期四半期別売上高

(単位：百万円)



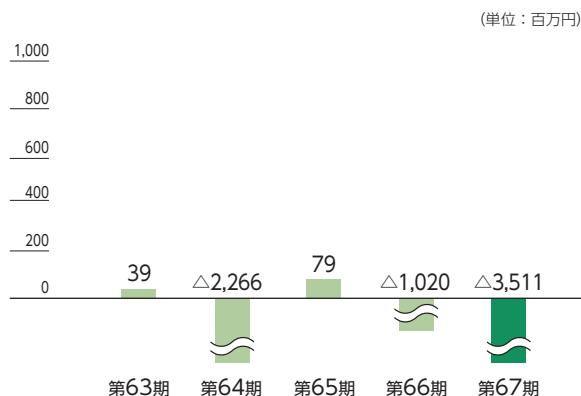
▶ 営業損益

△1,206百万円



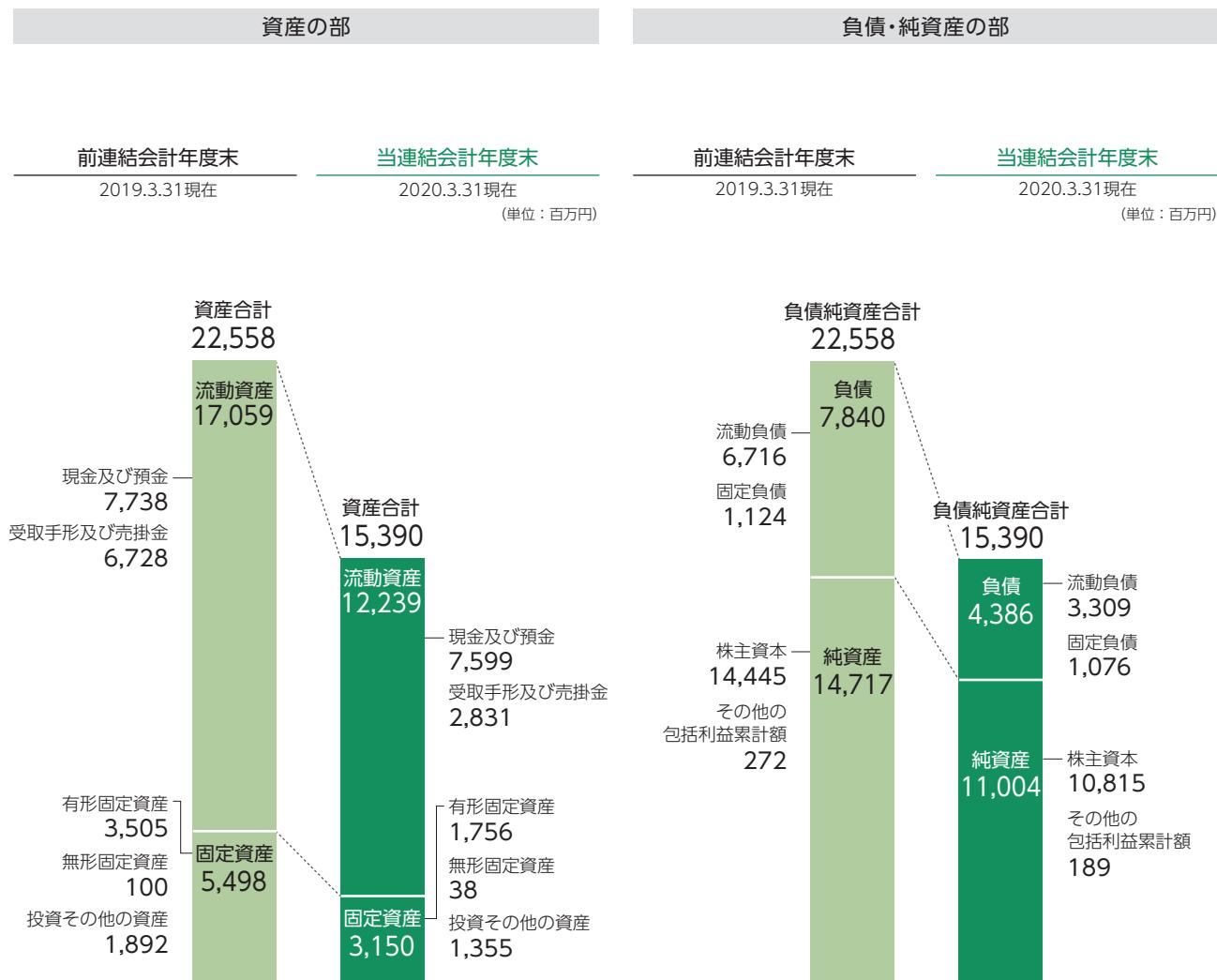
▶ 親会社株主に帰属する当期純損益

△3,511百万円



[財務データ]

▶ 連結貸借対照表



▶ 連結損益計算書

(単位:百万円)

科 目	第66期	第67期
	2018.4.1~2019.3.31	2019.4.1~2020.3.31
売上高	6,286	5,449
売上原価	5,090	4,972
売上総利益	1,195	476
販売費及び一般管理費	1,697	1,682
営業損失(△)	△501	△1,206
営業外収益	106	60
営業外費用	33	13
経常損失(△)	△428	△1,159
特別利益	3	66
特別損失	582	2,405
税金等調整前当期純損失(△)	△1,007	△3,498
法人税、住民税及び事業税	13	13
親会社株主に帰属する当期純損失(△)	△1,020	△3,511

▶ 連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

科 目	第66期	第67期
	2018.4.1~2019.3.31	2019.4.1~2020.3.31
営業活動によるキャッシュ・フロー	121	14
投資活動によるキャッシュ・フロー	△790	△235
財務活動によるキャッシュ・フロー	△145	△392
現金及び現金同等物に係る換算差額	△48	△23
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△862	△638
現金及び現金同等物の期首残高	9,400	8,538
現金及び現金同等物の期末残高	8,538	7,899

▶ 連結株主資本等変動計算書 第67期(2019.4.1~2020.3.31)

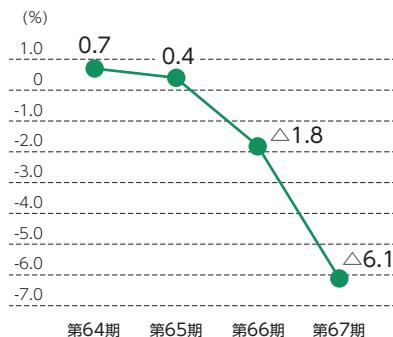
(単位:百万円)

	株主資本					その他の包括利益累計額					純資産 合計
	資本金	資 剰 余 金	本 利 剰 余 金	益 剰 余 金	自己株式	株主資本 合計	その他有価証券 評価差額金	為替換算 調整勘定	退職給付に係る 調整累計額	その他の包括 利益累計額合計	
2019年4月1日 残高	4,043	8,297	3,415	△1,311	14,445	△14	203	83	272	14,717	
連結会計年度中の変動額											
剰余金の配当			△118		△118					△118	
親会社株主に帰属する 当期純損失(△)			△3,511		△3,511					△3,511	
株主資本以外の項目の 連結会計年度中の変動額(純額)						18	△34	△66	△82	△82	
連結会計年度中の変動額合計	—	—	△3,630	—	△3,630	18	△34	△66	△82	△3,713	
2020年3月31日 残高	4,043	8,297	△214	△1,311	10,815	3	169	16	189	11,004	

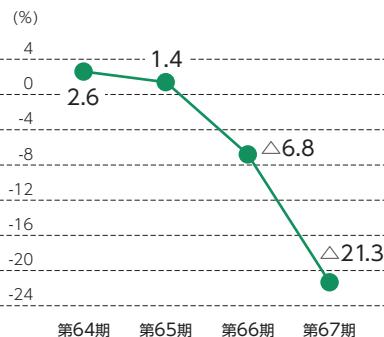
[財務指標]

▶ 収益性

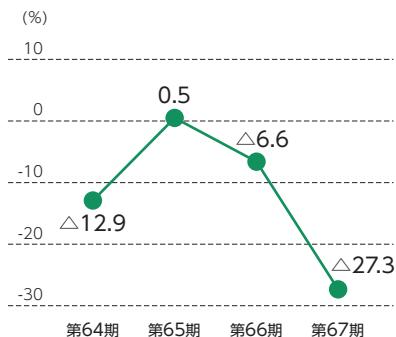
総資産経常利益率



売上高経常利益率

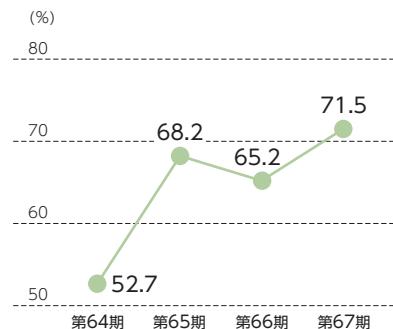


自己資本当期純利益率

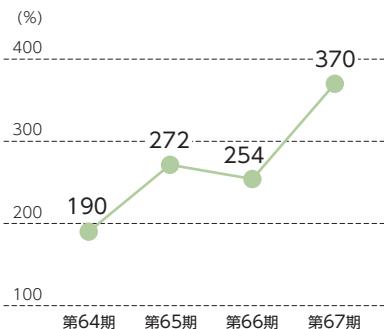


▶ 安全性

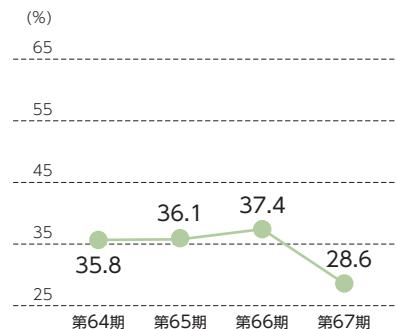
自己資本比率



流動比率



固定比率



■ 総資産経常利益率=経常利益÷総資産(注) ■ 売上高経常利益率=経常利益÷売上高 ■ 自己資本当期純利益率=親会社株主に帰属する当期純利益÷純資産(注)
 ■ 自己資本比率=純資産÷総資産 ■ 流動比率=流動資産÷流動負債 ■ 固定比率=固定資産÷純資産

(注) 総資産・純資産につきましては期中平均で算出しております。

[事業の経過及び成果]

▶ フラットパネルディスプレイ用基板

液晶パネル用帯電防止膜は、車載向けは安定的に推移するものの、スマートフォン向けではスマートフォンに搭載される表示パネルの多くが液晶パネルから有機ELパネルに移行されたことにより受注は大きく減少いたしました。タッチパネル用透明導電膜は、中国系スマートフォン向けや車載向けが安定的に推移いたしました。

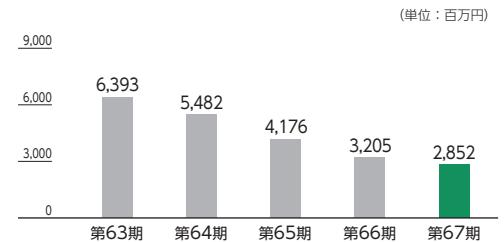
この結果、売上高は28億52百万円(前期比11.0%減)となりました。

▶ その他

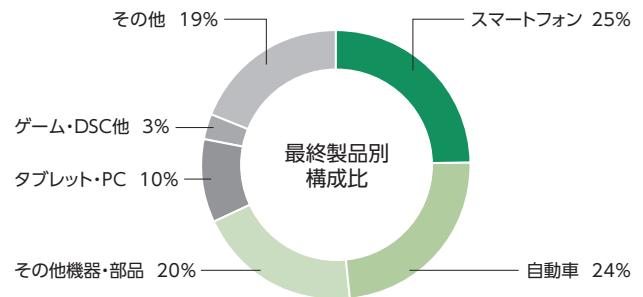
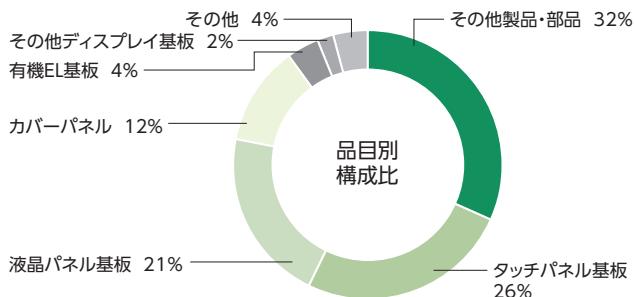
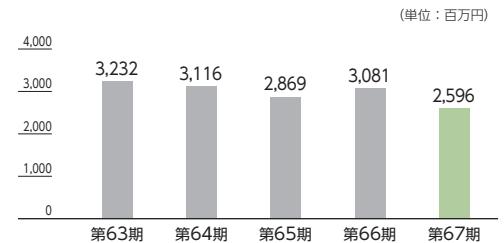
その他製品につきましては、カバーパネル向け反射防止・防汚膜は安定的に推移しましたが、液晶プロジェクター向けや照明向けで受注が減少したことや、その他の製品につきましても市場環境が厳しいことから試作等の受注が低下するなど厳しい状況で推移いたしました。

この結果、売上高は25億96百万円(前期比15.7%減)となりました。

▶ フラットパネルディスプレイの売上高推移



▶ その他の売上高推移



展示会情報

IDTECH show! [ベルリン/ドイツ]

[開催期間] 2019/04/10-11

[会場] Estrelコンベンションセンター

EU圏の開発者・技術者向けに、
当社の薄膜技術による
最新ソリューションg.moth®を
紹介しました

g.moth®及び加飾膜の実物を展示するとともに、超撥水、管内成膜、薄膜ヒーター、熱電対などを含む薄膜技術を動画で紹介しました。ブースにご来場いただいたお客さまの半数以上はイギリス、ドイツ、オランダなどEU圏のお客さまで、g.moth®、加飾膜への関心が最も高く、開発技術、企画職、研究調査を担当されている職種の方々に当社の薄膜コーティングソリューションをプレゼンテーションする絶好の機会となりました。



第12回オートモーティブワールド [東京/日本]

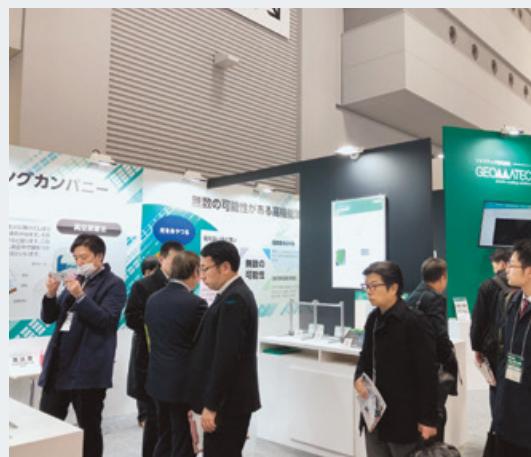
[開催期間] 2020/01/15-17

[会 場] 東京ビッグサイト

自動車業界の技術者向けに、 新規開発のための 薄膜コーティングソリューションを 紹介しました

カバーガラス、透明ヒーター、g.moth®、ハーフミラーなど、新規開発商材の実物を展示しました。あわせて、お客さまの具体的な技術課題の解決手段として薄膜技術をご検討いただくために、各製品・ソリューションのテクニカルデータを会場に常備し、お客さまと当社の技術者・研究者との意見交換が積極的に行われました。

また、壁面パネルで薄膜技術を紹介したことで、会場では成膜方法に関するご質問を多くの方からいただきました。成膜のしくみ、当社の強みや薄膜技術、コーティングソリューションを知っていただくことで、少しでも多くの自動車産業界の方々へ『薄膜でできること』を広めるきっかけづくりに恵まれた展示会となりました。



GEOMATEC製品の歩み

当社は、1953年の設立以来、一貫して「社会への光の応用」をテーマに、フラットパネルディスプレイ用基板、光学機器用部品などの中核要素を担う真空成膜技術に特化した受託加工メーカーとして企業活動に努めてまいりました。

- カメラ：アルミ表面鏡
- 玩具：アルミ表面鏡



- カメラ：ARコート・光学多層膜
- ルーペ：ARコート

- 二眼レフカメラ：アルミ表面鏡
- 一眼レフカメラ：アルミ表面鏡
- ラジオ：セラミックバリコン用銀電極膜
- マジックミラー：Tiハーフミラー
- 航空機：計器類カバーガラス用SnO₂電極膜
- 電子顕微鏡：内窓ガラス用SnO₂電極膜
- 信号機：カバーガラス用SnO₂電極膜（曇り止め用）
- 天体望遠鏡：アルミ表面鏡
- 潜水艦：潜望鏡カバーガラス用SnO₂電極膜

- 液晶腕時計：In₂O₃→ITO膜
- 複写機：アルミ表面鏡・アルミ高反射鏡



- 簡易印刷機：その他金属膜
- 装飾用照明：グラリエントフィルター
- 液晶電卓：In₂O₃→ITO膜
- 船舶：レーダー用ダイクロイックフィルター
- 時計用着色カバーガラス：TiO₂、Cr₂O₃等使用
- テレビ：コントラスト調整用ウェッジフィルター
- 液晶時計：ITO膜

- リアプロジェクションTV：アルミ表面鏡
- 交換レンズ：銀表面鏡・アルミ高反射鏡
- ステッパー：アルミ表面鏡・アルミ高反射鏡
- オートレフ：コールドミラー
- ラップトップ型ワープロ：ITO膜



- ビデオカメラ：IRカットフィルター
- 複写機：原稿台カバーガラス用ITO膜
- 光パワーメーター：ステップフィルター
- 扁平ブラウン管TV：蛍光体へのSiO₂コート

1950年代

- サングラス：Crハーフミラー
- 自動車：バックミラー用Cr反射鏡
- 航空機：翼端灯用銀反射鏡
- OHP：アルミ表面鏡
- 双眼鏡：ARコート
- 自動車：ルームミラー用Cr反射鏡

1960年代

- 投影機：アルミ表面鏡
- レントゲン装置：アルミ表面鏡
- ジアゾ式複写機：アルミ表面鏡



- 一眼レフカメラ：銀表面鏡

1970年代

- 家電製品：ITO膜
- 事務機器：ITO膜
- 太陽電池：ITO膜
- リアプロジェクションTV：青ダイクロイックミラー
- 歯科医用照明：コールドミラー・フィルター
- ビデオカメラ：ローパスフィルター
- LDプレーヤー：ARコートレーザーミラー



1980年代

- CDプレーヤー：ARコート・レーザーミラー
- 液晶プロジェクター：ダイクロイックミラー・フィルターARコート



- ラップトップ型パソコン：ITO膜
- レーザープリンター：アルミ高反射鏡
- 複写機：IRカットフィルター
- 液晶テレビ：ITO膜

- ラボ用プリンター：ダイクロイックミラー・フィルター・ARコート
- PDA：ITO膜
- 液晶モニター付きビデオカメラ：ITO膜
- レーザーマーカ―：ARコート

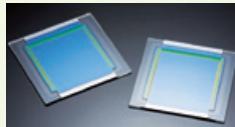


- ATM/CD：タッチパネル用ITO膜

- 液晶テレビ・パソコン：ITO膜
- カラー携帯電話：ITO膜・金属膜



- 全固体型薄膜リチウムイオン二次電池



- 光通信：ARコート・フィルター
- DMDプロジェクター：ダイクロイックミラー・ARコート・セラミックコート



- 液晶リアプロジェクションTV：ダイクロイックミラー・フィルター・ARコート

- モバイル機器：有機EL用ITO膜
- ポータブルオーディオ：有機EL用ITO膜
- 静電容量方式タッチパネル用ITO膜・金属膜
- LCD用帯電防止膜
- 有機太陽電池用TCO膜
- クリアヒート®:ITO膜(東邦シートフレーム株式会社共同開発品)

- 静電容量方式タッチパネル：フィルム用ITO膜・金属膜
- ロール to ロール成膜
- 照明：有機EL用ITO膜・金属膜
- マスクブランクス用遮光膜
- 薄膜熱電対
- 円筒内部成膜
- IoT向けセンサー
- ドームヒーター
- g.moth®



1990年代

2000年代

2010年～

GEOMATECの技術はさまざまな分野で活躍しております

スマートフォン、タブレット端末、携帯電話、デジタルカメラを代表に、毎日の暮らしのごく身近なところに当社の成膜技術が活かされています。それは、真空成膜技術に特化した受託加工メーカーならではのものです。



- 携帯電話
- スマートフォン
- タブレット端末



- 一眼レフカメラ
- プロジェクター
- デジタルカメラ



- カーナビ
- 電車(窓)
- 信号機
- 魚群探知機
- ETC



- 建材用途
- 住宅設備

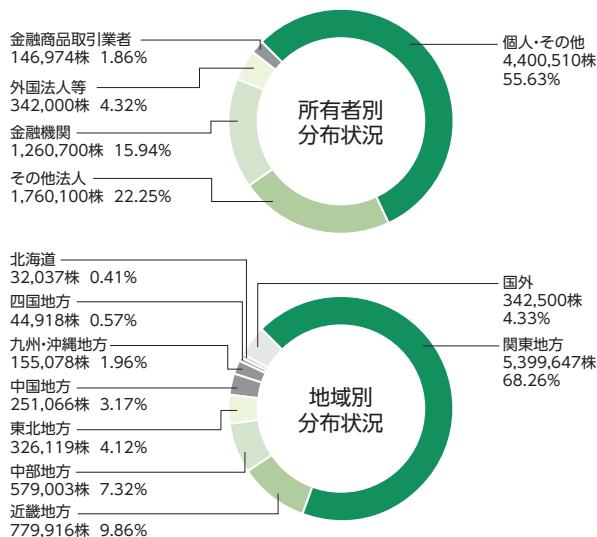
[株式の状況 (2020.3.31現在)]

発行可能株式総数	21,600,000株
発行済株式総数	9,152,400株
株主総数	4,070名 (前期末比392名減)

大株主

株主名	当社への出資状況	
	持株数(株)	持株比率(%)
有限会社松崎興産	1,389,800	17.5
松崎建太郎	428,300	5.4
みずほ信託銀行株式会社 退職給付信託 きらぼし銀行口 再信託受託者 資産管理サービス信託銀行株式会社	394,800	4.9
株式会社三菱UFJ銀行	303,800	3.8
ジオマテック従業員持株会	191,780	2.4
個人株主	160,000	2.0
明治安田生命保険相互会社	154,000	1.9
BNY GCM CLIENT ACCOUNT JPRD AC ISG(FE-AC)	113,400	1.4
個人株主	107,100	1.3
第一生命保険株式会社	105,000	1.3

*自己名義株式は除いております。



*自己名義株式は除いております。

▶ 株主メモ

事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日まで

定時株主総会 毎年6月

剰余金の配当基準日 3月31日(中間配当を行う場合は9月30日)

単元株式数 100株

公告方法 電子公告(<https://www.geomatec.co.jp/>)
ただし、やむを得ない事由によって、電子公告による公告をすることができない場合には、日本経済新聞に掲載して行います。

株主名簿管理人 東京都中央区八重洲一丁目2番1号
みずほ信託銀行株式会社 本店証券代行部

	証券会社等に口座をお持ちの場合	証券会社等に口座をお持ちでない場合 (特別口座の場合)
郵便物送付先		〒168-8507 東京都杉並区和泉2-8-4 みずほ信託銀行 証券代行部
電話お問い合わせ先		フリーダイヤル 0120-288-324 (土・日・祝日を除く9:00~17:00)
各種手続お取扱店 (住所変更、株主配当金受取り方法の変更等)	お取引の証券会社等になります。	みずほ証券 本店及び全国各支店 プラネットブース(みずほ銀行内の店舗)でもお取扱いいたします。 みずほ信託銀行 本店及び全国各支店 *トラストラウンジではお取扱いできませんのでご了承ください。
未払配当金のお支払	みずほ信託銀行*及びみずほ銀行の本店及び全国各支店 (みずほ証券では取次のみとなります) *トラストラウンジではお取扱いできませんのでご了承ください。	
注意	支払明細発行については、右の「特別口座の場合」の郵便物送付先・電話お問い合わせ先・各種手続お取扱店をご利用ください。	特別口座では、単元未満株式の買取・買増以外の株式売買はできません。証券会社等に口座を開設し、株式の振替手続を行っていただく必要があります。

[会社概要 (2020.3.31現在)]

- 商 号 ジオマテック株式会社
GEOMATEC CO., LTD.
- 設 立 1953年9月
- 資 本 金 40億4,385万円
- 従 業 員 数 595名(連結) 438名(単体)
- 本社所在地 〒220-8109
横浜市西区みなとみらい二丁目2番1号
TEL. 045-222-5720 FAX. 045-222-5735
E-mail:geomatec@geomatec.co.jp
- 事 業 内 容 フラットパネルディスプレイ用基板(液晶ディスプレイ用基板、EL用基板、タッチパネル用基板)、光学機器用部品、固体レーザー用光学系部品、その他真空成膜製品の製造及び販売他
- 主な販売先 アルプスアルパイン(株)、京セラ(株)、シャープ(株)、(株)ジャパンディスプレイ、ソニーセミコンダクタマニュファクチャリング(株)、日東電工(株)、パナソニック(株)、など (五十音順)

▶ 取締役、監査等委員及び執行役員

(2020.6.25現在)

代表取締役社長兼CEO	松	崎	建 太 郎
取締役執行役員兼CTO	菅	原	浩 幸
取締役執行役員兼CFO	河	野	淳
取締役執行役員兼CPO	千	葉	浩 之
取締役監査等委員	照	井	康 弘
社外取締役監査等委員	澤	口	学
社外取締役監査等委員	寺	西	尚 人
執 行 役 員	松	本	作 太
執 行 役 員	近	藤	武 芳
執 行 役 員	滝	沢	公 明

▶ ネットワーク

R&Dセンター

〒146-0093 東京都大田区矢口3丁目13番7号

金成工場

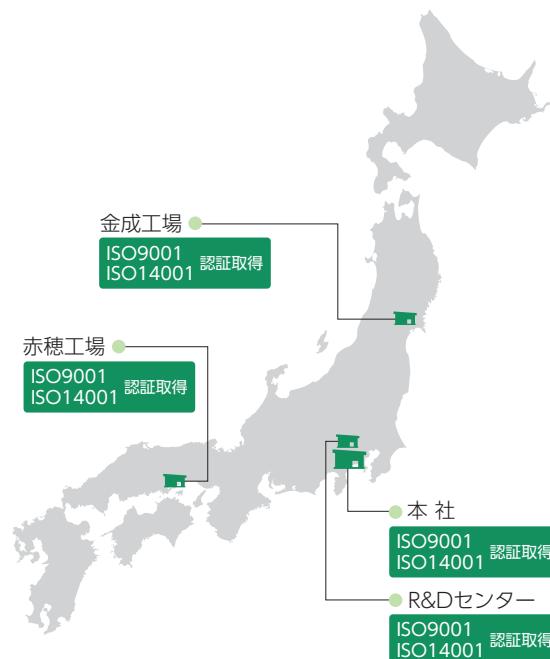
〒989-5164 宮城県栗原市金成金生51番地

赤穂工場

〒678-0165 兵庫県赤穂市木津稻荷山1325番80

吉奥馬科技(無錫)有限公司

中華人民共和国江蘇省無錫市無錫国家高新技术産業開發区B18-C地塊



当社ホームページでは、成膜技術に関する情報や加工製品、
IR情報などがご覧いただけます。



<https://www.geomatec.co.jp/>

スマートフォンからはこちら >>



ジオマテック株式会社

GEOMATEC CO., LTD.

本社 〒220-8109 横浜市西区みなとみらい二丁目2番1号
TEL.045-222-5720 FAX.045-222-5735



PROJECT-
With the Earth

この冊子の印刷・製本に係るCO₂は
PROJECT- With the Earth を
通じてオフセット(相殺)しています。

UD
FONT

見やすく読みまちがえにくい
ユニバーサルデザインフォントを
採用しています。